

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

地域活動(食事会や季節の行事)が活発に行われているほか、高い高齢化率に合わせて、居場所やサロンなど、新たな地域の社会資源が創出されてきています。これからは、地域の社会資源がより一層増えていくことや、既存の資源が活性化し継続出来るような支援をしていきます。また、相談員が、ケアプラザの自主事業や地域活動の場へ積極的に参加することで、困りごとを気軽に相談できるようにしていきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ワンストップ相談窓口を目指して、高齢者のみならず、障がい児・者や子どもの相談を受け付ける機関であることを周知します。実際の支援にあたっては、障がい児・者や子ども分野の相談機関と、速やかに連携します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ケアマネジャーと民生委員児童委員の交流会を開催します。できるだけ多くの方に参加していただけるよう、広く参加者を募ったうえで、さらに、担当ケアマネジャーと担当民生委員が顔を会わせて情報交換できるように、個別に参加の声掛けをします。個人情報取り扱いについても周知します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	一般住民が参加しやすい認知症サポーター養成講座をエリアメイトさん(認知症について研修を受け普及啓発活動をして下さる方)と意見交換しながら実施します。講座開催時には、その地区の地域診断情報をお伝えしていきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	定期的に参加して下さる自主事業参加者の変化を早期に把握し、必要に応じて出前脳トレ講座を行います。また、趣味や生活の知恵などの伝承をツールに、子育て親子を含む地域の方々と高齢者の交流の場をつくります。 障がい児余暇活動では、新しいことにチャレンジできるように、小学生だけでなく、中高生に参加者を広げて交流を図ります。 ボランティア育成では、シニアボランティアポイント研修を開催し参加の呼びかけをします。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	高齢者の介護予防・社会参加を促進し、社会的孤立を防ぐための住民による居場所・サロンの運営支援を行っていきます。具体的には、居場所・サロン活動の参加者が増えるように、生活支援コーディネーターと地域包括支援センター職員が、民生委員児童委員やケアマネジャーに情報提供を行います。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からさまざまな活動が制限されましたが、民生委員児童委員やふれあい会の方からご相談をお受けし、個別訪問することが出来ました。また、例年の宮崎まつりを開催出来なかった為に、宮崎まつりWEEKとして地域の皆様の作品展示会を開催したり、活動を制限されている貸室団体の方へ感染防止策を徹底したうえで活動出来るようヒアリングを重ねたり、ケアプラザとしての意義をある程度果たしてきました。  
また、認知症サポーター養成講座を通して見守りの目を増やしていくことの重要性を発信し続け、ご協力いただきました。

区からのコメント

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、年度当初計画していた内容の中止や見直し、自主事業や貸室業務が制限された1年でしたが、その中でも地域ケアプラザとして今できる事を考え、取り組まれています。特に、感染拡大防止に配慮した形で「おまつりWEEK」を開催し、ケアプラザへの来館の工夫や、活動団体の紹介、活動団体の作品の発表の場の創出を実現された点を高く評価します。また、コロナ禍で新しい地域活動の創出が厳しい状況の中でも、数年に渡り取り組みを重ねてきたことで、新たな居場所のづくりの検討ができました。  
横のつながりづくりが難しい状況が続いていますが、ふれあい会や民生委員など築いてきた関係を通して声を拾い、個別の相談につなげることができています。今後は、新たなつながり方のひとつとして、ICTを活用した講座の開催や地域活動の支援を期待します。